

# 赤水しのび観月、墓参

## 顕彰会と天文同好会

高萩・北茨城

現在の高萩市出身の学者、長久保赤水（1717～1801年）をしののぼつと、観月や赤水の墓参を行う催し「赤水忌」が10日、同市赤浜にある赤水の隠居所跡周辺などで開かれた。同市の天文愛好家グループ「ずばる天文同好会」と長久保赤水顕彰会が主催し、両会員を中心に約30人が参加。望遠鏡を使った中秋の名月の観察などを楽しんだ。

地と碑を見学した。その後北茨城市中郷町小野矢指の県立北茨城特別支援学校に場所を移し、午後6時過ぎに海から上がってきた月を眺めた。同天文同好会が用意した望遠鏡も使ったほか、同校体育館にはテント型のプラネタリウムを設置して星座観賞を楽しんだ。火星と木星の間にある小惑星に「ナガクボ」の名を付けようと活動し、2016年に実現した同好会の川口和彦さん（69）が経緯を説明。「なんとか（17年の）赤水の生誕300年に間に合わせることができた」と語った。

参加者は同所にある赤水の墓を参った後、赤水の隠居所だった「松月亭」の跡

長久保赤水をしのび、中秋の名月を楽しむ参加者＝北茨城市中郷町小野矢指

も最高だった。赤水さんがいいところに住んでいたんだと分かった」と感想を話した。

同顕彰会の佐川春久会長は「新型コロナウイルスの影響でイベントが全くできななかったので、顕彰会の創立30年記念としても開念としても開

「高萩市内の男性（80）は「催できてよかった」と述べ「詳しい説明を聞けて、月」。



（小原瑛平）